



共通①：【花芽充実対策】葉面散布資材「葉友」2,000倍を加用する。＊7月下旬～8月の定期散布混用可。

共通②：薬剤散布時の注意点

- ・隣接園（特に、今後収穫期を迎える作物）に飛散しないよう十分注意する。
- ・散布後は、タンク内や散布器具の洗浄を十分に行ない、薬液が残らないようにする。

7月下旬～8月上旬定期：前回より15日後

- 散布時期：7月27日～8月4日
- 散布薬剤：水 100㍓
- 展着剤（ササラ） 50ml
- コロマイト乳剤 100ml（前日、1回）
- エクシレルSE 20ml（前日、3回）
- ダイパワー水和剤 100g（前日、3回）
- 散布量：10a当り 600㍓
- 対象病害虫：輪紋病、炭そ病、褐斑病、斑点落葉病、ハダニ類、シンクイムシ類、キンモンホソガ
- 注意事項

◆ 散布日： 月 日

◆ 散布量： ㍓

① 【注意】ダイパワー水和剤・ベフラン液剤に含まれる成分（イミノクタジン）の使用は開花期以降年間合計3回までとする。

*真夏のシンクイムシ類の食入防止対策

8月中旬特別散布：前回より7日後

- 散布時期：8月4～11日
- 散布薬剤：水 100㍓
- 展着剤（ササラ） 50ml
- バリアード顆粒水和剤 50g（前日、3回） ＊劇物
- 散布量：10a当り 600㍓
- 対象病害虫：シンクイムシ類、カメムシ類 他
- 注意事項

◆ 散布日：8月 日

◆ 散布量： ㍓

特別散布

- ① 【重要】バリアード顆粒水和剤は劇物です。購入の際は印鑑をお持ちください。
- ② 【ハダニ類対策】アカリタッチ乳剤1,000倍（前日、－）を加用する。

8月中旬定期散布：前回より15日後

- 散布時期：8月12～19日 ＊ハダニ類が発生している場合は、前倒して散布下さい。
- 散布薬剤：水 100㍓
- 展着剤（ササラ） 50ml
- フイントフロアブル25 50ml（前日、4回）
- イカズチWDG 66g（前日、2回） ＊劇物
- オーソサイド水和剤80 100g（前日、6回）
- オマイト水和剤 133g（3日前、1回）
- 散布量：10a当り 600㍓
- 対象病害虫：輪紋病、炭そ病、褐斑病、斑点落葉病、すす点病・すす斑病、黒星病
シンクイムシ類、カメムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、ハダニ類
- 注意事項

◆ 散布日：8月 日

◆ 散布量： ㍓

8月中旬

- ① 【重要】イカズチは劇物です。購入の際は印鑑をお持ちください。
- ② 【注意】オマイト水和剤はナシ類に登録がないので、飛散しないよう注意する。

【重要】つがる落果防止剤使用方法等は次ページをお読みください。

➡ つがる等の落果防止剤の散布について

- ① 対象品種：つがる
- ② 使用薬剤：ストップール液剤
- ③ 散布時期：収穫開始予定の15日前に1回散布
- ④ **使用倍率：1,500倍 ⇒ 水100ℓに66ml・展着剤は加用しない**
- ⑤ 散布量：500～600ℓ/10a

● 目安：8/5～10頃

● 収穫前規制のため、収穫開始は散布後7日間経過後とする

◆ 注意事項

- ① 展着剤は加用しない。
- ② 単用散布を厳守する ⇒ 他剤との混用は絶対にしない。
- ③ **乾燥条件下では効果が低減するので、定期的なかん水を行い、園地内の湿度を上げる等の対策を図る。**
- ④ 他品目、特に野菜等に飛散しないように注意する ⇒ 生育障害・薬害発生の恐れあり
- ⑤ 落果防止剤を散布すると熟度が早まり、果肉軟化を助長しやすいので、過熟果発生に注意して収穫を進める。

➡ 早生種の着色管理について

- ① 日焼け果防止対策：果実温の高い日中に作業を行い、早朝や夕方、果実温の低い時間帯には行わない。
- ② 徒長枝切りや枝つり、支柱立てを早めに行い樹冠内部への光の導入を図る。
- ③ 葉摘み：収穫の7日前位（8/20前後）から始める ⇒ 日焼けを助長するため、あまり早期に実施しない
 - 1回目：日焼けに注意しながら、果実に密着している果そう葉を中心とした軽い葉摘みを行う。
 - 2回目：着色の様子を見ながら玉回しと合わせて実施する。（収穫直前頃）
- ④ 一度に強い葉摘みを行うと、日焼け果の発生を助長するので注意する。
- ⑤ 玉回し：果実が30%程度着色したら1回目を実施 ⇒ その後に収穫直前頃の葉摘みと併せて2回目を実施する。
- ⑥ 直射日光の当たる部分の葉摘み、玉回しは実施しない。

【収穫時の注意】

- ① 着色のみではなく尻部の地色の抜け具合も注意する。つがるの収穫は高温時であるため、過熟果の発生がないよう熟度を考慮しながら行う ⇒ 着色ではなく鮮度重視とする
- ② 同一の樹のなかでも果実により熟度の差があるので、数回に分けて収穫する。
- ③ 鮮度保持対策：日中の高温時の収穫は出来るだけ避ける。収穫した果実は日陰などの涼しい場所に保管する。

【灌水・土壌管理】

- ① 高温・干ばつにより土壌水分の蒸散が激しい場合は灌水を行い、園地内湿度を一定に保つ。尚、雨が5日以上ない場合は、1回のかん水量を20～35mm目安に実施する。
- ② 水分不足は果実肥大に影響し、水分ストレスはつる割れ果等の発生を助長する恐れがあるので注意する。

➡ 着色資材の使用例

- 対象：つがる他
- 下記資材は全て定期散布に混用可能です。選択により使用してください。詳しくは担当技術員までお問い合わせください。

| 商品名 | 使用目的 | 倍率 | 使用時期 | 500ℓ当り 薬剤費 | 定期散布 農薬混用 |
|---------------------------------|--------------|-------|---|---------------|--------------|
| 彩色甘味 (おすすめ!) @2,900円/500g | 着色促進 糖度向上 | 1,000 | 7月下旬・8月上旬 (収穫予定30日前と15日前の2回連続散布が効果的) | 2,900円 | 可 |
| モーニング エース @4,400円/500ml | 着色促進 品質向上 | 500 | 7月下旬・8月上旬 (収穫予定30日前と15日前の2回連続散布が効果的) | 8,800円 | 可 |

果樹特報 No8 発行予定：8/17

【重要①】 果樹特報 No1～7はJA 中野市ホームページに公開中です。ホームページ内「営農情報」を選択し、8桁の組合員コードを入力してください。閲覧できます。スマートフォンからもアクセス可能です。

【重要②】 毎週金曜の果樹園芸メールでも随時特報配信しています。配信希望の場合は営農センター（23-3933）まで。